



いかり 康雄

# 未来を見据えた まちづくり

市民が「主役」!

## 聞かせてください。あなたの声を!

川口をよりよくしていくために、あなたのご意見を聞かせてください。

- あなたが関心があるのは次のどの分野ですか?  
・防災 ・コミュニティ ・福祉 ・介護 ・子育て ・環境 ・市政・議会改革 ・新庁舎問題
- 新庁舎問題を知っていましたか?  
・知っていた ・知らなかった
- あなたは投票に行きますか?  
・毎回行く ・ほとんど行く ・あまり行かない ・行かない
- あなたのご意見をご自由にお書きください。

お名前: \_\_\_\_\_ 郵便番号: \_\_\_\_\_ ご住所: \_\_\_\_\_  
 電話番号: \_\_\_\_\_ メール: \_\_\_\_\_  
メールで連絡を受けることを承認いただける場合は、メールアドレスをご記入ください。

電話でご連絡ください。本人が伺います。または、郵送・ファクシミリ (048-437-5585) でご返送ください。

### 【経歴】

昭和38年 川口市生まれ (51歳)  
 昭和51年 川口市立芝南小学校卒業  
 昭和54年 川口市立芝中学校卒業 (テニス部所属)  
 昭和57年 埼玉県立浦和高等学校卒業 (柔道部所属)  
 昭和63年 早稲田大学政治経済学部卒 (地方自治を学ぶ)  
 昭和62年 民間シンクタンク入社。  
 平成5~16年 ヨーク大学 (カナダ) 環境学研究科 (M. E. S.=環境学修士)。北イリノイ大学 (アメリカ) 政治学研究科 (Ph. D=政治学博士)  
 平成17年 帰国後、民間シンクタンクに復帰。環境・まちづくり分野の事業を担当  
 平成23年4月 川口市市議会議員選挙に挑戦。100票差で涙を飲む。  
 現在、民間シンクタンクの主任研究員。  
 環境問題・まちづくりに取り組むNPOなどで幅広く市民活動に取り組んでいる。

(注1) 「山口県たばこ対策ガイドライン」では、「通路、出入口、子どものいる空間等から概ね10m以上離す」としています。

(注2) 「地区計画」とは、住民が主体となって土地利用のルールを定めるもので、都市計画法に位置付けられることによって、一定の強制力を持ちます。



いかり 康雄



### 討議資料

平成27年 (2015年) 1月  
 〒333-0866 埼玉県川口市芝2-8-2  
 TEL: 048-268-2696  
 FAX: 048-437-5585  
 EMAIL: info@ikariyasuo.com  
 HP: http://ikariyasuo.com



芝南小・芝中出身

# いかり 康雄

まちづくり  
街創職人  
を

## レポート 芝地区編



## 地元「芝」を考える! 課題と解決策

昭和15年、芝村が川口市と合併した芝地区は見渡す限り水田が広がっていた地域でした。JR京浜東北線蕨駅に近く、東京への交通の便利のため、昭和40年代までの高度経済成長期に急速に高密度な住宅地へと変わりました。防災上の脆弱性、公園緑地の不足をはじめとして、地域の課題を抱えています。



芝地区の課題を解決していくには、行政による積極的な取り組みが不可欠です。地域が声を一つににして働きかけていくことが必要です。

### 蕨市・JRとの協調による駅周辺の環境改善

蕨駅は、芝地区の玄関口です。利用者の大半が川口市民ですが、蕨市内に位置しているため、周辺の整備については、川口市民の視点が反映されない点がみられます。



蕨駅東口に設置された案内図。駅をおりるとすぐに川口市なのに、この地図では、まったく描かれていません。

自治体は、自らの地域内については積極的に取り組みますが、他の自治体の領域については、取り組みが進まないことが多くなっています。蕨市・JRとの協力を進め、駅周辺の環境改善を進めていく必要があります。

### 都市基盤の着実な整備



芝南小建設前の風景。一面の田んぼでした (昭和42年、「卒業アルバム」より)

急激な市街化のため、計画的なまちづくりができず、芝地区での都市基盤は脆弱です。快適な生活空間の確保に向け、道路や公園の計画的な配置などが、不十分となっています。都市基盤整備の問題は、すぐに解決できることではありませんが、区画整理、統廃合された学校用地の活用など、少しずつでも着実な取り組みが望まれます。

### 世代とともに変化する芝地域

昭和30年代の人口増加期に、芝地区に引っ越してきた方々は、子育て世代が多く、当時は、小学校も1学年6クラスという時代もありました。当時の子育て世代は、おじいさん・おばあさん世代となり、地区の人口構成も変わりました。高齢者が暮らしやすいまちづくりをしていくとともに、地域を活性化していくために、子育て世代が住みたくなるまちづくりが必要です。



# 1 蕨駅東口周辺の環境整備

## ・駅前分煙徹底による受動喫煙の防止

蕨駅東口の喫煙所は、駅利用者の通り道から十分に離れておらず、たばこの煙が歩行者に届いてしまいます。非喫煙者の健康に良くないだけでなく、喫煙者にとっても心苦しい状況ではないでしょうか。

喫煙所の場所の検討や設備の改善など、しっかりとした分煙が必要です。(注1)



東口喫煙所の写真

## ・放置自転車対策の強化

蕨駅東口には、多くの自転車が放置され、歩行者の通行を妨げています。指導員が配置されていますが、指導に従わずに放置する人も少なくないようです。大多数の方が有料の自転車置場を利用しているなかで、ルールを無視した放置は、公平の観点からも許されません。

放置自転車をなくすために、駐輪場の増設とともに、撤去体制の強化(例えば、指導員の権限の強化、放置後30分程度で撤去する)が必要です。



「放置禁止」の看板の横に置かれた自転車

## ・混雑緩和のための施設増強

蕨駅の乗車人数は、1日約6万人。朝の通勤時間帯は、エスカレータの前に行列ができ、飽和状態です。長期的な課題として、駅施設の増強、周辺環境整備のために再開発を検討すべきではないでしょうか。線路を挟んだ樋ノ爪地区と芝園地区を陸橋で結び、北口を設置するという案があります。市民から様々な提案が出てくることはよいことです。混雑緩和の観点から傾聴すべきアイデアといえます。

# 2 快適な住環境の整備

## ・土地区画整理の推進

土地区画整理の実施中は、新築が制約されるため、事業の遅延は、住民にとって大きな問題です。芝地区の土地区画整理は、市内で最も遅れており、5割以上で、区画整理が終了していません(面積ベース)。現在、施行中の4地区(下表参照)のなかには、事業期間が終わっても進捗率が20%にとどまっているものもあります。事業が遅れると、事業費も増加し、地権者、納税者の負担が増します。

土地区画整理事業の円滑な事業推進が求められます。他の自治体では、民間のノウハウの導入することにより、事業の短期終了、費用の圧縮を検討しているところもあります。



芝地区で実施中の土地区画整理事業

	事業期間	施行面積 (ha)	権利者数 (人)	総事業費 (億円)	進捗率 (%)
芝東第5	S54~H30	53.8	1,307	89.5	21.99
芝東第6	S60~H26	41.9	1,342	135.1	24.12
芝東第4	H1~H40	92.6	2335	274	21.60
芝東第3	H7~H36	63.2	1905	204	22.84

## ランドマーク「猫橋」の由来

蕨駅から西に500mにある「猫橋」、一見、橋があることにも気づかない小さな橋ですが、誰もが知っているランドマークです。

その名の由来には、諸説ありますが、「ネコ」は「寝粉」と書き、古代から海岸や河口で取れる砂鉄のことを言ったそうです。このことから、猫橋の由来は、鋳物の原料となる砂鉄にあるとする説も有力です。

## ・市街地総合整備事業

区画整理が未施行の地区(芝富士地区、樋ノ爪・芝4・5丁目地区)では、狭い道路が多く、木造住宅が密集しているため、防災上の対策が必要です。「住宅市街地総合整備事業」が進められており、主要道路の拡幅や公園用地の確保など、生活環境の向上を目指しています。

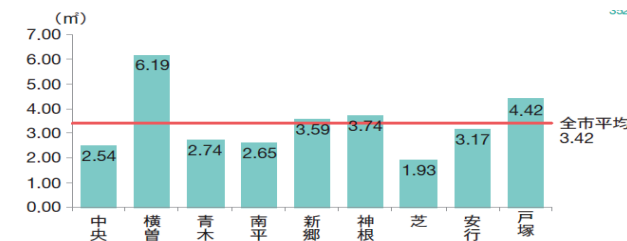


緊急車輛の通行が困難な道  
出典「芝樋ノ爪及び芝4・5丁目地区まちづくり協議会ニュース」

まちづくり協議会を設置して「地区計画」(注2)の策定が進められていますが、住民の声をしっかりと聴きながら進めていく必要があります。

## ・公園・緑地の拡大

公園などの公共的空間は、市民の憩いの場、子どもの遊び場として重要です。しかし、川口市の公園・緑地面積は、市民1人当たり3.42㎡、公園緑地法施行令に示されている全国標準の3分の1。特に、芝地区の公園緑地面積は、さらに低く、1人当たり1.93㎡にすぎません。



1人当たりの公園・緑地面積

区画整理事業などの機会を最大限に活用して、着実に改善していく必要があります。また、地域の声を聞きながら芝園小・芝東小学校跡地、その他の市有地の有効利用を、検討すべきです。

## 豊かな歴史的遺産

芝中の南にたたずむ長徳寺は貞治3年(1364年)の創建。南北朝時代の古刹で、鎌倉の建長寺ともつながりがある由緒あるお寺です。芝地区にも他市に負けない文化財が残されています。



# 3 より活気あるコミュニティ

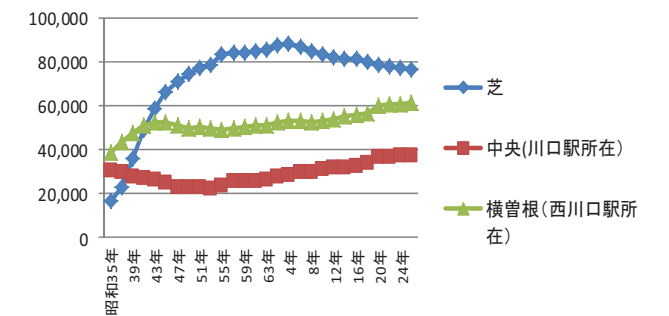
## ・若い世代を惹きつけ活気あるまちに

川口市の人口は、近年も増加が続いていますが、芝地区の人口は、81,287人、10地区の中で唯一減少が続いています。若い世代を惹きつけられるまちでなければなりません。

千葉県流山市では、子育て・教育環境に関する施策の充実し、積極的にPRすることにより、30歳代の人口が増えています。

子育て・教育環境を整備することによって、地域の活性化を目指します。

## 地区別人口の推移



## ・高齢者にとって住みやすいまちに

芝地区の65歳以上の高齢者は18,092人、住民の22.1%となっています。高齢者にとってはわずかな段差でも外出の妨げとなります。眼が不自由な方や、車いすをお使いの方にはなおさらです。利用者にやさしい視点で街を見直し、高齢者や障がい者が外出しやすいまちづくりをめざします。

## ・多文化共生

川口市の外国人人口は、22,958人(H26.1)、県内では一番多くなっています。全市民に占める外国人市民の割合は3.9%となっています。

芝地区での外国人市民の割合は6.2%、特に芝園地域では、45%に達しています。多様な文化に触れられる反面、ごみ出しなど生活マナーについての指摘が聞かれます。

近年、ヘイトスピーチといわれる排外的な動きがあることは残念なことです。日本人と外国人市民も互いに尊重しあいながら生活できる社会でありたいものです。そのために、日本人と外国人市民との交流の促進が必要です。

## ・市民と行政の協働による取り組みの強化

地域の課題解決については、町会・自治会、商店会、老人会など、地域に根差した団体の役割が大きくなっています。地域の課題に取り組んでいる市民団体も少なくありません。市民と行政の協力して取り組んでいける体制を強化します。

聞かせてください、あなたの声を!